

日刊建設工業新聞

発行所 ©日刊建設工業新聞社 2012 〒105-0021 東京都港区東新橋2-2-10 電話03(3433)7151 URL:http://www.decn.co.jp/

2012年(平成24年)9月10日(月曜日) (12)



竹林 征三
富士常葉大学名誉教授
山口大学時間学研究所客員教授

私たちは科学万能の時代に生きている。ニュートン、デカルトの科学の手法は宇宙の神秘を解き明かし、地球の営みや生誕の謎、生命の不思議、遺伝子の謎などを次々と解き明かしていった。人類は科学の手法を利用して、文明社会を謳歌している。余りにも絶大な科学の成果に対して今や疑いを入れる者は皆無に等しいのではないか。

特に、理学や工学の自然科学の分野では基礎から応用の各種分野では科学の手法は疑ってはならない絶大・至高のものと信じられて

いる。科学者とは科学教という宗教の狂信者という感じさえする。科学とはどのような手法なのか？

「科」とは「禾(のぎへん)」と「斗」の会意文字である。「禾(のぎへん)」は穀物の事であり、「斗」は量器のことである。従って、「科」とは収穫した穀物を品定め(分類)する、そして、その量と質(こと)にほとんど細かく分けて細分

「科学の敗北」などと言っている場合ではない

化して同類項を集めて、小さい量器(タコツぼのようなもの)に入れラベルを張り付けることである。そのタコツぼの中の整合性がある理論を考える、それをほとんど精密にしていく方法である。科学者とはそのタコツぼの中の整合性のある理論を考える専門家ということができる。科学万能の現在、科学者は世の中で高い評価を受け、尊敬されている。世の中の部門ごとのリーダーとして活躍されている。

超能力で、靈感で予知する以外にないということなのか。今回の大地震は自然現象として超巨大地震で、時間スケール、空間スケール共に、これまで想定していた範囲よりも大きかったというだけではないのか。今回の東日本大震災という自然現象はこれまでになかった多くの研究テーマを私どもに与えてくれた。

日本の地震科学は次々地震のメカニズムを科学的手法で解明し、地震の規模や発生確率等まで計算できるところまで来た。特に巨大地震の発生確率の高い東海地震を予知できる事を前提として世界最初の地震立法である大規模地震対策特別処置法が1978年に制定された。

その計画に基づき、海底の微妙な歪を計測し、地震の予兆を捉えるために、多くの精密計器を設置し計測を始められ、少しでも異常が発見されると地震予知連絡会議が中央で設置され警報や避難の発令が出すという、肌理の細かい体制が組み込まれた。私ども地震学の門外漢にとっては地震科学の目覚ましい成果に対し、拍手喝采で、日本の地震学、日本の予知技術は世界一のレベルだと信じこんできた。そのような中で今回、東日本大震災が生じた。

所
論
諸
論

科学の部門の中でも際立って大きな成果をあげてき

その計画に基づき、海底の微妙な歪を計測し、地震の予兆を捉えるために、多くの精密計器を設置し計測を始められ、少しでも異常が発見されると地震予知連絡会議が中央で設置され警報や避難の発令が出すという、肌理の細かい体制が組み込まれた。私ども地震学の門外漢にとっては地震科学の目覚ましい成果に対し、拍手喝采で、日本の地震学、日本の予知技術は世界一のレベルだと信じこんできた。そのような中で今回、東日本大震災が生じた。

これは分らなかったメカニズムの解明をするには、科学の手法以外に理にかなった方法論はありそうにない。地震とか火山とかの地球の営みは科学の手法が一番得意とする分野ではないのか。